

まえがき

本テキストは、「プログラミング・同演習」で行う Java プログラミング学習用に執筆したものです。最初に本テキストの成り立ちを簡単に説明しましょう。本テキストの原型は、2000 年度のプログラミング学習用に執筆した「Delphi 入門」にさかのぼります。このテキスト制作に当たっては、森田と共に石川（現在、大阪国際大学現代社会学部准教授）と高橋（現在、稚内北星学園大学情報メディア学部講師）も議論に加わり、3 名共同で執筆を行いました。その後、年度ごとに改訂を重ねると共に、2002 年度は「C++Builder 入門」を加えました。そして、2003 年度にプログラミング言語が Java 言語に変更となった事に伴い「JBuilder7 入門」に改編、さらに 2004 年度は JBuilderX に対応するべく内容を改めて「JBuilderX 入門」とし、適宜加筆・修正を行いながら 2007 年度まで同内容で使用しました。そして、2008 年度には、Java プログラムの開発環境を JBuilder から Eclipse に変更しました。その後適宜改訂を続け 2010 年度に至っています。2010 年度は第 9 章のアプリレットが加わった事が大きな変更点です。しかし、基本構想は 2000 年度当初のテキストのそれを引き継いでいます。これら以前のテキストは「プログラミング」の Web ページに公開しておく予定ですから、学生諸君は、興味があれば参照してみてください。

さて、次に内容について少しふれましょう。タイトルに「・・・入門」とあるように、対象としてはプログラミングの初心者を中心としており、3 ヶ月弱で Eclipse を用いた Java 言語プログラミングの基礎をマスターできるようになることを目標としています。このテキストの内容を習得すれば、市販のテキスト等を読んでさらに高度な知識を独学で身に付けることができるようになると思います。

ところで、プログラミングはただ説明を読むだけでは身に付きません。そこで、本テキストでは実際にプログラムを作成し、その動作結果を確認しながら必要事項を理解して行く、というスタイルをとっています。テキスト中では、【練習問題】あるいは【基礎課題】としてそのようなプログラムを用意しています。まずは、“だまされた”と思ってテキストの指示通りプログラムを作成して下さい。その際、なぜそのような結果になったのかを理解するようにして欲しいと思います。少し面倒でもこの作業を繰り返すことにより、着実にプログラミングの力がついて行きます。そして、その理解度を確認するために【応用課題】を用意しています。これらは、作成後補助員のチェックを受けて下さい。成績評価の対象となります。

本テキストは Java 言語用としては 8 年目を迎えますが、時代の変化に応じて改善すべき点が多々あることと思います。その際は、我々に指摘して頂ければ有り難く思います。ともあれ、本テキストが、より深いプログラミングの世界に興味を持つきっかけとなることを願っています。

2010 年 9 月 20 日 著者ら記す